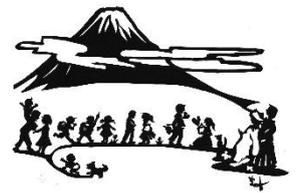


学校教育課だより

かけはし



学校教育課だより
「かけはし」
【第4号】
平成30年
7月20日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

授業を考える

教育監兼学校教育課長兼

教育指導センター所長 勝亦 重夫



今年の梅雨明けは、例年に比べ大変早く、夏休み前というのに暑い日が続いています。子供たちの体調管理が難しい状況となっていますので、いつもに増して気をつかわれていることと思います。

三十日間の夏休みがいよいよ始まりです。子供たちが家庭に戻ってそれぞれの計画で生活することになります。子供たちにとって安全で充実した夏休みが送れるように、再度御指導をお願いします。

また、先生方にとっても、いつもと違い、時間的に余裕が生まれる期間です。普段で

きないことにチャレンジするなどして、リフレッシュしてもらえればと思います。二期の始業式では、明るい素敵な笑顔で子供たちの前に立っていただけることを期待しています。

◇ ◇ ◇
私の家は兼業農家で、細々とですが米作りをしています。秋の収穫の時期まで様々な作業が行われます。

まず、四月中旬にトラクターで田起こしを行うことからスタートです。下旬になると苗を植える準備をします。代掻きといい、田起こしで耕し

た田んぼに水を入れ、トラクターで土を細かくし、田全体を平らにするのです。しばらくして落ちついた後、いよいよ田植えとなります。その後除草剤を散布したり、雑草を取ったりと色々な作業を経てやつと米が収穫できます。

作業をする中で、心がけるのは「一つ一つを丁寧に着実にやる」ということです。一つの手抜きが後々まで影響し、修正がなかなか利かないということを経験的に知っているからです。このことは、米づくりだけではなくいろいろなことに共通することだと感じています。

五月二十三日の神山小をスタートに六月二十八日の原里小まで、人事管理訪問で各学校を訪問させていただきました。どの学校でも真剣に授業を受ける子供たち、大きな声

で挨拶を行う子供たちの姿を多く見ることができました。静東教育事務所地域支援課の谷参事が「私たちの仕事は、子供たちの姿で評価される。」と指導の中で話されていました。先生方が四月から丁寧に手を抜くことなく指導を積み重ねてきた成果が、子供たちの姿にしっかりと表われていると実感しました。

多くの良い表れがありました。したが、課題もあります。それは、授業です。

◇ ◇ ◇
どの学校でも、学校の柱となる授業の改善に取り組んでいます。しかし、先生方の「よい授業をしたい」という気持ちとは裏腹に、教師の説明が中心となっている授業が多くありました。また、一方的に課題を与えて「なぜだろう」「もっと知りたいな」という子供たちの気持ちが生まれないまま進んでいく授業もありました。

「子供が授業にどのように主体的に取り組んでいくか」が、今の授業には求められています。そのために、導入の工夫や課題を生む発問の工夫などが重要です。もう一度、

自分の授業の有り様を振り返り、子供たちの意識を「授業を受ける」から「授業に参加する・授業を創る」に変えていければと思います。

御殿場市・小山町授業研修会の目指すもの

指導主事 石田 豊正

新学習指導要領が改訂された「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善が示されました。この改訂により、道徳が教科化となり、「特別の教科 道徳」の趣旨や理念の実現を図るため、「考え、議論する道徳」への転換が示されています。

今年度より、駿東地区教科等指導リーダー授業研修会が廃止となり、各市町教育委員会及び各学校に教員の研修体制の再構築が求められています。このような過渡期中、御殿場市・小山町授業研修会の今年度以降の方向性について、推進委員会で協議を重ねました。本研修会の趣旨と歴史を踏まえつつ、五年前から続けてきた「道徳」と「特別活動」の隔年実施を再検討し、平成三十二年度末までに方針

を固めていくことにしました。今年度は、本研修会の根幹をなす「学習集団づくり」の視点を大切にしつつ、道徳の教科化も見据え、新学習指導要領を意識した「道徳」を公開することになりました。年間テーマについても、「子供の思いを大切にし、子供が学びの実感を積み重ねる授業を目指して」学習集団づくりと新学習指導要領を意識した道徳の授業づくり」に変更しました。

本研修会の目指すものは「北駿地区の教員の授業力を伸ばす」授業を下支えする学習集団づくりの充実を図る。「北駿地区の教育文化を継承する」です。今年度、本市では、九校が授業を公開しました。事後研修では、「学習集団づくり」と「新学習指導要領を意識した道徳の授業づくり」について各会場で活発な討議がなされ、各学校の校内研修の特色やよさを北駿地区全体に広めてくれました。

最後になりますが、授業を公開してくださった先生方、本研修会の運営に携わってくださった研修主任の先生方をはじめとした多くの皆様の御

尽力に深く感謝申し上げます。北駿地区の先生方の研修がさらに深まる一年となることを願っています。

寄り添い、共に考える

就学支援員 岩瀬 和代

支援学級・通常学級の前半の見学が終了しました。より良い就学をめざし、来年度入學予定の園児とその保護者の方を対象に行っているものです。私もその見学に同行し、市内各小学校を訪問させていただきました。各校では、見学の目的を理解し、きめ細かな温かい対応をしてくださっています。

玄関には、人数分のスリッパを準備してくださっています。案内板を掲げてくださっています。先生方や職員が笑顔で出迎えてくださいます。教室に入ると、人数分の椅子を準備してくださっています。一緒にできそうな活動を準備し、声を掛けてくださいます。保護者の相談や質問にも丁寧に答えてくださいます。初めて足を運ぶ小学校は、園児や保護者の方にとって、大変不安で、緊張することと想像し

ます。ましてや、就学に関する不安や困り感を抱え、悩み、苦しみ、より良い就学先を模索している方です。寄り添い、共に考える学校の姿勢、学校により対応は様々ですが、このような温かな心配りが、外から訪問した方にどれほど、安心感や安堵感を与えることでしょうか。そしてそれは、

「この学校・学級・先生に、うちの子をお願いできたら。」という、信頼につながっています。こんな温かいウエルカムの学校・学級は、子供たちもまた同様に、温かく、受容的です。安心して、自分の居場所を見出し、自己表出しています。大勢の見知らぬ人の入れ替わりの訪問は、子供たちにとって、とても心落ち着かず不安なものです。先生方にとっても子供たちに見通しや、心の準備を持たせるために多くの労力を要することは思いはかれます。

見学者を受け入れるための一つ一つの対応こそ、まさに、特別支援教育の基本中の基本だということを強く感じます。園の先生方も見学に同行し、入学に向けて不安を抱えているお子さんの様子や保護者の

思いを共有してくださっています。学校・園が寄り添い、共に考える、特別支援教育の姿勢に感謝いたします。

学年主任等研修会

指導主事 丹澤 謹志

本年度は、第一学年学年主任等を対象として、「幼小及び小中のなめらかな接続」について、講義及びグループ協議を行いました。

前半の講義では、幼稚園指導員の瀬戸亮策先生を講師として、「引き継いで生かす園小・小中の接続」について学びました。また、後半は小学校部会と中学校部会に分かれて協議を行い、小学校部会ではスタートカリキュラム案の作成を検討し、中学校部会では中一ギャップの解消となめらかな小中接続について意見交換をしました。

本研修に参加した先生方は、今回の幼児教育の改訂が義務教育を見据えたものになっていくこと、育つてほしい十の姿が幼児教育のみに求められるものではなく、義務教育にも通じるものであること、幼小及び小中における「なめ

らかな接続の有用性」等について改めて認識をすることができました。

☆スタートカリキュラムがやらなければならないことの羅列に終わることなく、子供たちが学校に慣れたり、学校が楽しいと思えて意欲的に学べたりするようにしたい。

☆幼児小の接続を生かして、中学校での接続はどうあるべきかを考える機会になった。協議では、課題解決のために学年経営がどうあるべきかのヒントが得られた。

これらは、参加した研修員の感想です。御殿場市教育委員会でも「幼児教育と義務教育のなめらかな接続」は重点施策の一つとなっており、幼小中の連携推進は今後も加速していきます。園・学校現場でも意見交換を行い、認識を深めてほしいと思います。



学年主任等研修会は教育指導センター主催の研修会です。